

市民公開講座「病気とくすり」 開催報告

恒例となりました市民公開講座「病気とくすり」が、平成24年6月10日（日）13時半から、松山市湊町のいよてつ高島屋9階ローズホールにて開催されました。

今回の講座は、「もっと知りたい最新治療」をテーマに愛媛大学医学部附属病院 小児科の福田光成先生に「てんかんの正しい理解と最新の治療」、愛媛大学医学部附属病院 心臓血管外科の八杉巧生に「下肢の血行障害－病態と内服・手術療法」、愛媛大学医学部附属病院 薬物療法・神経内科の野元正弘先生に「脳神経の新しい治療～物忘れ、ふるえ、しびれ、脱力～」と題して、ご講演いただきました。写真や動画を用いた説明は大変わかりやすく、みなさん熱心に聴講されました。

参加いただけなかった方は、「愛大病院治験ネットワーク（愛称：愛ネットワーク）」のホームページにムービーを公開予定ですので、ご覧下さい。過去に開催された公開講座の映像もご覧いただけます。

〈アドレス〉 <http://www.ehime-network.com/public/movie.html>



福田 光成先生



八杉 巧先生



野元 正弘先生

CRC(看護師)
みやわき かずみ
宮脇 和美

2012年10月1日より臨床薬理センターに勤務させていただくことになりました。治験とは？というところからのスタートですが、頑張っていきたいと思いますので、ご指導よろしくお願ひいたします。



新メンバー紹介

左から、宮脇 和美、亀岡 優希



データマネージャー
かめおか ゆき
亀岡 優希

2012年4月1日から臨床薬理センターで勤務しています。まだまだ至らない点が多く、ご迷惑をおかけすると思いますが、今後ともご指導よろしくお願ひいたします。

認定 CRC
(2012 年度合格)



これからも初心を忘れず、患者さまに安心して治験に参加していただけるようサポートしていきたいと思ひます。

吉田 陽子

臨床薬理センターへのご意見・ご要望などをお寄せください

愛媛大学医学部附属病院 臨床薬理センター

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

TEL : 089-960-5914. 5920 (ダイヤルイン) FAX : 089-960-5910

E-mail c-trials@m.ehime-u.ac.jp

ホームページ <http://www.m.ehime-u.ac.jp/hospital/clinicalresearch/>

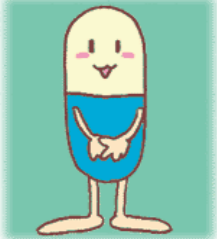


愛媛大学医学部附属病院

臨床薬理センター News

2013.1.1

第10号



第11回 瀬戸内国際臨床試験カンファレンス 開催報告

平成24年10月20日（土）に松山道後 にぎたつ会館（公立学校共済組合）にて第11回瀬戸内国際臨床試験カンファレンスを開催いたしました。

本カンファレンスは、近年の治療薬開発と薬物治療を中心に学会とは異なる気楽な勉強会を目指しており、今回は医療機器の研究開発の推進とアカデミア・医療機関の役割をテーマにとりあげました。

当日は全国の製薬企業、医療機器企業、CRO、SMO、医療機関から約80名の方が参加され、有意義な講演に終始傾聴されていました。また、質疑応答の時間では白熱した議論が展開されるなど、大盛況のうちに終了いたしました。



開会挨拶：景山 茂先生

* プログラム

テーマ【医療機器の研究開発の推進とアカデミア・医療機関の役割】

- 高江 慎一（厚生労働省医政局研究開発振興課）
「出口を見据えた臨床開発と法制度 行政の立場から」
- 山本 晴子（国立循環器病センター 先進医療・推進部）
「医療機器・材料の開発と課題（心血管系を含めて）」

～人工関節の開発と課題～

- 三浦 裕正（愛媛大学 運動器学〔整形外科〕）
「トランスレーショナルリサーチ アカデミアの立場から」
- 谷岡 寛子（京セラメディカル株式会社）
「人工関節のグローバル開発における課題」

～血糖調節機器の開発と課題～

- 景山 茂（東京慈恵会医科大学 薬物治療学）
「血糖モニターの歴史（臨床試験の歴史を含めて）」
- 南海 史朗（パナソニックヘルスケア株式会社）
「血糖測定機器の開発」

次回は、2013年10月5日（土）、6日（日）に松山ワシントンホテルプラザにて開催する予定です。皆様のご参加をお待ちしております。



開会挨拶：野元 正弘先生

- 澤 充（日本大学 眼科学）
「眼科医療機器・材料の開発と課題」
- 福澤 泉（コヴィディエンジャパン株式会社）
「医療機器の開発と課題 グローバル開発の立場から」

平成24年度治験実施優秀者表彰

愛媛大学医学部附属病院における治験において、多くの症例を実施した担当医師を表彰する「治験実施優秀者表彰」（治験実施優秀者の病院長表彰制度*）の平成24年度の表彰者は、平成23年度に5症例以上の治験を実施した日浅陽一（第三内科）、辻井智明（薬物療法・神経内科）、谷向 知（精神科）、三好誠吾（第二内科）の計4名（敬称略）となりました（野元正弘は表彰者制度の提唱者であり、永井将弘は臨床薬理センター長であるため辞退）。2012年10月22日に表彰式が行われ、檜垣実男病院長から、表彰状が授与されました。

*選考基準は、一定の症例数以上を担当した担当医師、または基準症例数に達しないが、特に複雑で難しい治験を担当した医師の中でCRCが推薦する医師。臨床薬理センターからの推薦をもとに、顕彰者数は、1年度5名程度として次年度に病院長が表彰する。治験は実施する担当医師の労苦が多大であるにもかかわらず、それが業績等になかなか反映されないなど、インセンティブが高くないことが指摘されており、そうした中でこの表彰制度は、治験実施に奮闘されている先生方を、病院が支援し評価していることを表している。



(左より)
 永井 将弘（臨床薬理センター長）
 辻井 智明（薬物療法・神経内科）
 谷向 知（精神科）
 檜垣 実男（病院長）
 日浅 陽一（第三内科）
 三好 誠吾（第二内科）
 （敬称略）

❖ 谷向 知 先生

治験終了時、感謝状を手渡したとき、被験者であるアルツハイマー病の方が自分も役に立っていると喜ばれ、その姿を目にした家人が目頭を押さえておられる姿が印象的でした。

❖ 辻井 智明 先生

治験の中にはかなり時間を取られるものもあり、少ししんどい思いもありましたが、今回の受賞を機に、気持ち新たに頑張っていきたいと思えます。

❖ 永井 将弘センター長

治験実施優秀賞の受賞おめでとうございます。また、年々治験のプロトコルが複雑になってきている中で多くの症例を組み入れ、担当して頂き有り難うございました。円滑な治験実施のため臨床薬理センター職員一同、今後も先生方をバックアップさせていただきますので来年度も宜しくお願いいたします。

❖ 日浅 陽一 先生

センターの方々のサポートにより治験を円滑に進めることができ、ありがとうございます。治験をうけてよかったといわれる患者様を拝見し、勇気づけられています。

❖ 三好 誠吾 先生

この度はこのような賞を頂き誠に有難うございます。今後も臨床試験に積極的に参加し、社会に貢献できるよう尽力したいと思います。

創薬・育薬セミナー 開催報告

第19回 創薬・育薬セミナー

2012年9月28日（金）17時30分より、臨床第3講義室において、第19回創薬・育薬セミナーが開催されました。

今回のセミナーは、富山大学 薬学研究部バイオ統計学臨床疫学部門教授の折笠秀樹先生を講師にお招きし、「臨床試験を正しく評価するには」というテーマでご講演いただきました。これから治験を始める先生方、現在臨床試験・臨床研究に関わっておられる多くの先生方が出席され、熱心に傾聴されていました。



折笠 秀樹先生

第20回 創薬・育薬セミナー

2012年11月19日（月）17時より、医学部基礎第2講義室において、第20回創薬・育薬セミナーが開催されました。

今回のセミナーは、昭和大学 医学部教授の小林真一先生を講師にお招きし、「臓器、血液等の既存検体と臨床研究」というテーマでご講演いただきました。今回は、主にIRB委員、臨床研究専門委員会、病理部、検査部を主な対象に多くの先生方が出席され、講演終了後には、熱心に質問される先生方の姿がみられました。



小林 真一先生

当院では、年に数回院内・院外より講師の先生をお招きしてセミナーを開催し、多くの先生方が、臨床研究・臨床試験に関する知識の向上に努めております。今後もこのようなセミナーを開催していく予定ですので、治験を実施したいと考えておられる先生方、治験に興味をお持ちのコメディカルの皆様のご参加をお待ちしております。

臨床薬理センター 発表報告

～第12回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2012in大宮～

平成24年9月1日から2日間、「第12回CRCと臨床試験のあり方を考える会議」が、大宮ソニックシティにて開催されました。当院からは、CRC西内が「Phase I Unitを利用した病態時の薬物動態試験実施の取り組み」という題でポスター発表を行いました。

臨床薬理センターのCRCが、院内他部署のスタッフと協力しながら病態時の薬物動態試験にも取り組んでいます。今後も、円滑に実施できるよう支援をしていきたい。



ポスター発表者：CRC西内 尚子